

令和 6 年度

あい・ふあいる活用アンケートの集計結果

(1) アンケートの目的

堺市で平成 24 年 2 月に作成を開始した「あい・ふあいる」の利用について、活用状況を把握するため、3 年に 1 度アンケートを実施している。なお、このアンケート結果は「堺市障害者施策推進協議会条例」に基づく堺市発達障害者支援専門部会にて報告を行うものとし、途切れない支援のツールとして、今後のあい・ふあいるのあり方等の検討や、乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する一貫した支援を行うための支援関係機関のネットワークの構築など、今後の発達障害者（児）支援体制整備の推進を目的としている。

(2) アンケート対象者

1. 障害児通所支援を利用中のこどもの保護者
2. 庁内・庁外の関係機関*

* 各区子育て支援課、各区地域福祉課、各保健センター、保健福祉総合センター、教育センター、子ども相談所、幼保支援課、障害支援課、公立認定こども園、認定こども園・保育所・幼稚園、こども園、放課後ルーム（のびのび・堺っ子くらぶ）、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、北こどもリハビリテーションセンター・南こどもリハビリテーションセンター、公立小学校、公立中学校、障害児相談支援事業所・特定相談支援事業所、障害児通所支援事業所、障害福祉サービス事業所（短期入所・居宅介護等）、障害者就業・生活支援センター、発達障害者支援センター、総合相談情報センター、各区基幹相談支援センター、その他

(3) 回答期間

令和 7 年 3 月 19 日～令和 7 年 6 月 1 日

(4) 回答数

総数：570 件（保護者：84 件 支援者・関係機関：486 件）

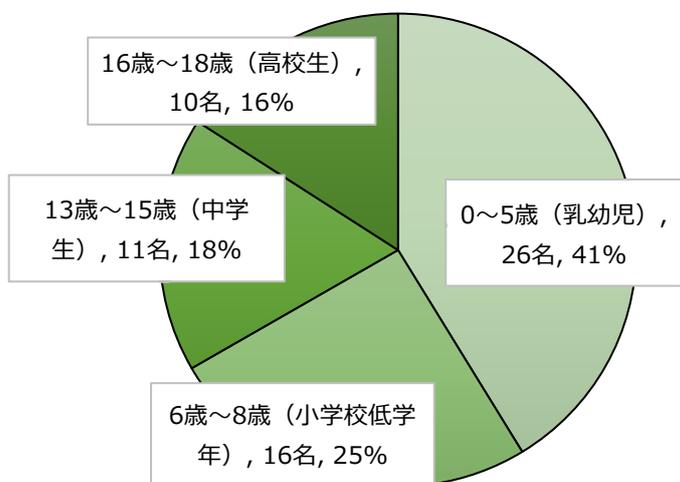
【目次】

1. 保護者へのアンケート結果について.....	2
2. 支援者へのアンケート結果について.....	7

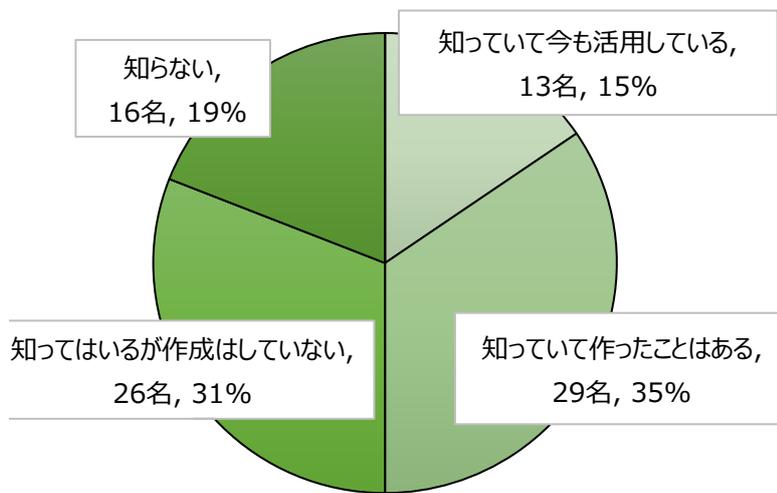
1. 保護者へのアンケート結果について

問1 支援の必要なお子さまの年齢層を選んでください

※きょうだいがいる場合は、一番上のお子さま、またはあい・ふあいるを作成しているお子さまの年齢



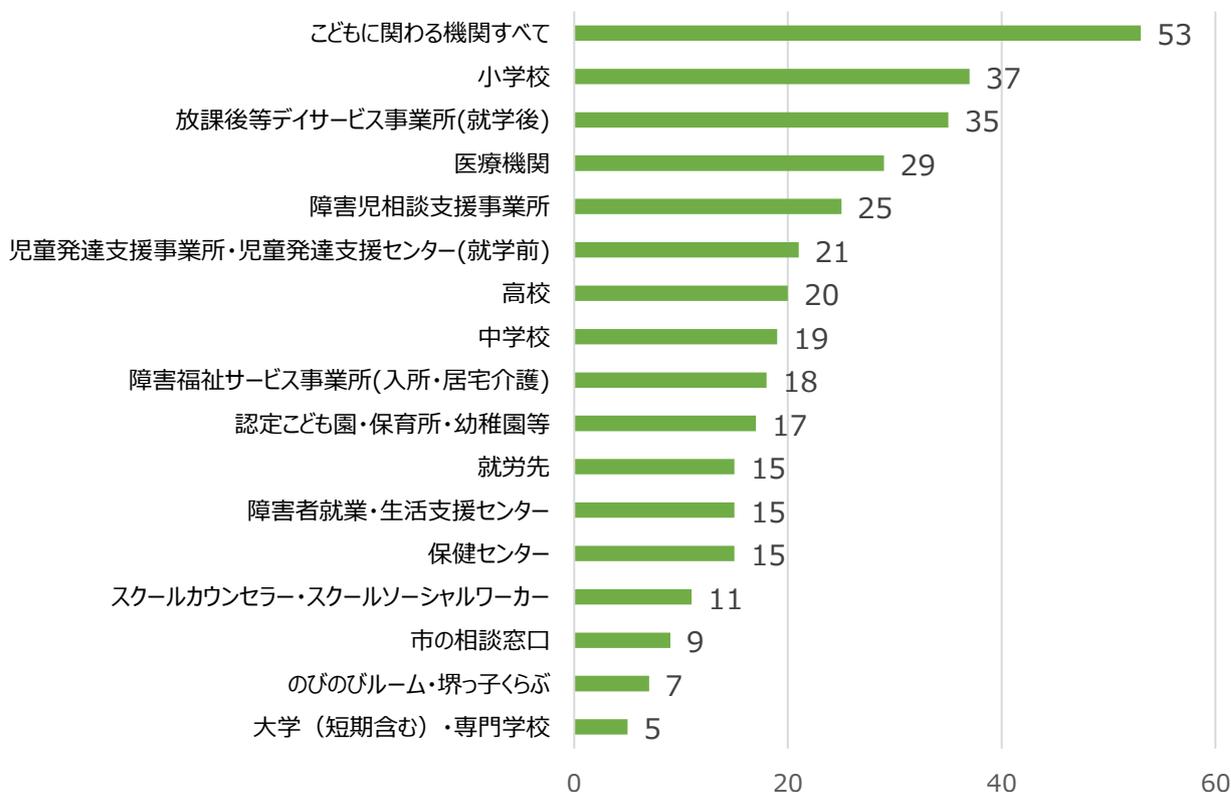
問2 あい・ふあいるを知っていますか？



あい・ふあいるを「知っている」と回答した保護者の中で、実際にあい・ふあいるを作成または活用しているのは約5割であった。

問3 こどもの情報について見てもらいたい（知ってもらいたい）と思う機関はありますか？

※複数選択可、回答者数は84名。



「子どもに関わる機関すべて」に、こどもの情報を見てもらいたいと考える保護者の回答が最も多かった。

■問4・5・6は、あい・ふぁいるを「知っていて今も活用している」「知っていて作ったことはある」と回答した保護者42名に質問。

問4 使い勝手が良いと思うところはどんなところですか ※複数選択可。



問5 もっと利用してもらうための取り組みがあれば選んでください ※複数選択可。



■問5で「その他」と回答した保護者の記述内容

手書きを止めて、アプリにする。そもそも書く行為が苦手なのもあるのですが、手書きの場合、情報(困りごとや好き嫌い等、日毎に変化していくので)が新しくなる度に書き足す、あるいは書き直さないといけない事に気付き、その途方もない道なりに作成途中で挫折してしまいました。アプリなら気楽にいつでも何処でも作成や修正が出来るので、便利だと思います。また荷物を少しでも少なくしたいので、紙媒体を止めていただきたいです。支援が必要な子どもという時は、両手を空けていないといざという時に絶対守れません。是非アプリを検討してください。お願いします。

アプリなどにしてもらえると、もっと記入しやすくなると思います。

資料が多くなりすぎて持ち運べない。専用アプリのような形でデジタル化して欲しい。

「あい・ふぁいるを作っていれば、見せて欲しい」とサービス提供者側から言われれば、見せようと思うが、自分から見せようとは思わない。自分の記録としてしか、現在使えていない。福祉サービス、医療サービスなど、初めて書く時、書き方が分かりにくかった。サービスを利用して数年たって、こういうことを書くのかな？と分かってくる感じ。

学校、デイサービス、支援員、その他関係者、誰もあいふぁいるを見たいと言わないし、そして特に使わないから記入を怠り忘れてしまう。学校やデイでも利用するなら記入すると思う。

パソコンで入力できる雛形が欲しい

相談時に見てもらえるとか、もっと、作るだけでなく持ってきてくださいねーと言う機会を作ってくれたら、積極的に使える気がする

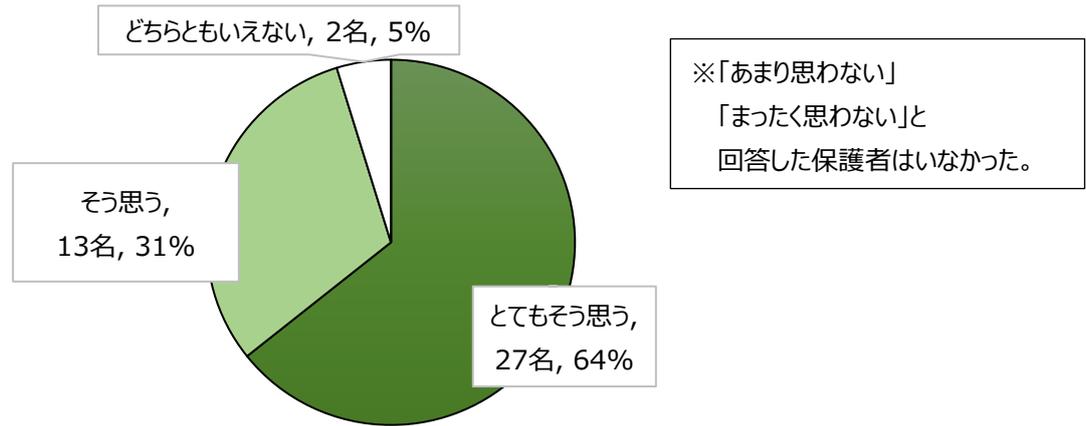
あい・ふぁいるの現行の形の利点として、「ページの抜き差しや、資料を追加することができるため、必要と感じる情報のみを集約できる」という回答が多かった。

あい・ふぁいるの利用促進のためには、作成のメリットの発信、支援者からの声掛け・伴走型の作成を求める声が多くあがった。物理的にはサイズを小さくしてほしいという意見、その他では、アプリ化を希望する声もあがった。

問6 あいふぁいるを活用して役立ったと思うエピソードがあれば教えてください（自由記述）

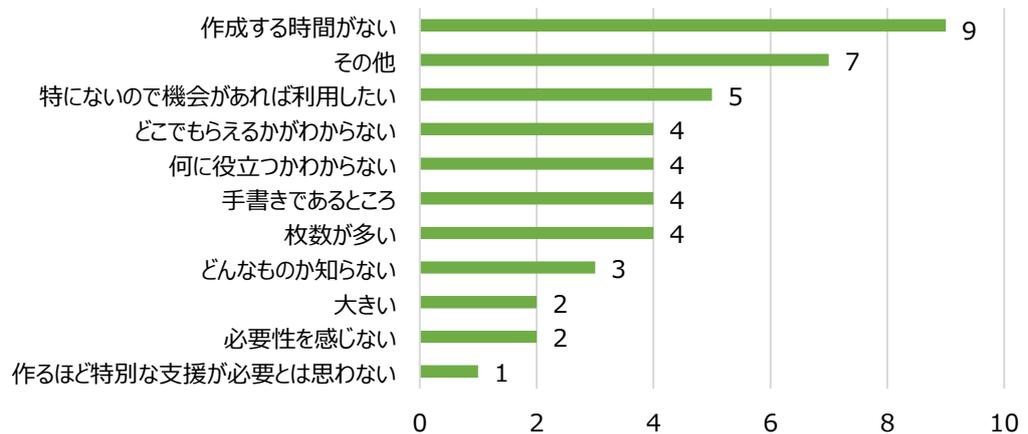
進学時に更新して渡しています。生育歴、特性、好きなこと、苦手なこと、医療関係などもろもろ、詳細にわたり子どものことを伝えることができるので、合理的配慮を求めやすいです。また、学習面や生活面におきましても支援の参考になるかと思います。
支援計画やモニタリングなどの資料を挟んで、後でまとめられる。年金受給の際に役に立つと聞いている。
福祉サービスを契約する時には生まれた時から今までの経過を説明しないとけないのですが、あいふぁいるがあれば、必要なページをコピーしてもらうだけでいいので、時間短縮になりました。契約先の方も「めっちゃ便利！」と喜んでいました。
利用した施設などをまとめていると、すぐに話しやすい。ただ、書くことの時間が取れないこともあり、PC やアプリなどでもできるようになると、もっと使いやすくなるかと。。学校などの施設で、修了時に、書いてもらえることを、声をかけてもらえると、よかったです、
子どもが小学生の時に配布してもらったので書き込んだが、その時だけでそれ以降ほぼ記入していない。子どもが障がい年金の申請する時に必要になる情報になると聞いているが何処まで必要なのか？理解できず、また、まだ先だと思ってしまって放置している。特に役立った感じがしません。学校の先生へ見せて理解をもらう為に活用するには A4 サイズに簡単に全て集約されて見やすい物が必要。
小学校から中学校へ、など進学するときに親からの引き継ぎ資料として活用できた。学校や病院からの書類をまとめておける。
児童発達支援や放課後等デイサービスにお世話になる際、必ず持参しております。必要なページをコピーして頂いたり目を通してもらうことで、一から細かく説明しなくても説明を省けるという利点があります。自分が子どもの過去の様子や、その時の思いなどを見直すためのツールとしても役に立っています。
活用できていない。こどもの思い出、記録になっている。将来障害年金を申請するような時には自分の記憶を遡るのに活用できそう。
そもそも活用する場面がない。とりあえず貰った資料をとりあえず全て挟んでいるが、何のために置いとくべきなのかわからない。将来本当に必要なのかすら分からない。
今の時代に手書きがありえない。作り手も読む側も手書きは読みにくし量産しづらい。使い勝手が悪く、同じ仕様ならパソコンやスマホで専用サイトを作り更新できる方が良い。できた当時から使ったがすぐに自分でパソコンでサポートブックを作りました。
発達状況や相談した先を書いていると、新しい支援先などへの子どもの説明がしやすい。年度替わりなど書類の記入に役に立つ
新しく利用したいと思ったショート先の医師に、こういう子どもですと説明するのに使えると思って持って行ったら、こんなにたくさん見れないよとパラパラ見ただけですぐにファイルを返されてしまった。全部まとめるのは良いけど挟んでいくだけの形を取ってる人は自分用にしかならず、支援者の方には見ってもらう機会もないかも。実際にあいふぁいるを見せてくださいと言われたこともこのこと以外に見せる機会もなかった。
まだ、未経験
過去を遡って書類に記入しなければいけない時に忘れてる事も多いので、メモしておく便利 また障害年金を取得時があると便利だと聞いて記録中
熱心な先生は熟読して下さったので、有り難かったです。有り難かったですが、全く目を通してない先生（地域の小学校）もいたので、認知が増えてほしいと思います。あいふぁいる、サポートブック共に先生によって、活用されないのもどかしいです。
小学部→中学部→高等部と、入学の節目に本人の基本的な情報や生活歴が必要になるので、必要な内容をきちんと整理しておくで後々便利です。今後は年金の申請のときに役立つと思います。
フォーム化されているところは不要なところもあつたり、なかなか記入できなかつたりしますが、写真をたくさん貼っていたので、幼い頃のことを知らない支援者の方に写真を見てもらいながら、その頃話を聞いてもらいました。子どもの可愛い写真をみってもらうことでより子どものことを身近に感じてもらえたように思いました。

問7 こどもが安心して過ごせる環境づくりなどに活かせる情報をまとめたものがあれば活用したいと思いますか？



あい・ふあいを「知っているが作成はしていない」または「知らない」と回答した保護者 42 名に質問したところ、そのうちの 95%は、こどもが安心して過ごせる環境づくりなどに活かせる情報をまとめたものがあれば、活用したいと思っている。

問8 (あい・ふあいの) 作成に至らない理由があれば選んでください ※複数選択可



■ 問8で「その他」と回答した保護者の記述内容

- セミナーを受けて作成したいと考えているが、セミナーを受ける機会がない。検索しても既に終了したものしか出てこない。
- 役所に何度も貰いにいったが、いつも在庫がないと言われたため。ホームページから印刷出来ます、と言われたが、家にプリンターもない。すぐに手に入らないと、いろいろしんどくなって、やる気が失せてしまう。
- 子供にかかわる機関が、インターネットで情報を共有出来れば良いのと思います。親や放デイや、学校等が同じフォーマットに書き込めて、誰もが閲覧できればスムーズなのと思っています。
- あいファイルに記入する内容が、各関係機関(小学校、放課後デイサービス、のびのびルーム、相談先療育機関)に提出する内容と重複するため、その書類の写しをあいファイルに保管している。
- あい・ふあいをもらったのが小学生に入ってからだったので活用しにくくて残念でした。産まれた時点でもらってれば産まれてからの経過や成長の様子を記録できたのでありがたかった。母子手帳の発達の経過と子どもの発達の経過が合わないので母子手帳に成長の記録が書きにくいと思っていたのであい・ふあいに記録したかった。
- もらうものの種類が多くサイズや縦横が色々で、どれを残しておけばよいのか迷う。また、単純にパンチ穴を開けるのが手元に器具なく、書類が積み上がっている状態。これをファイルすべき、というインフォが各事業所で統一されているとうれしいのと、ひと手間ですが穴開けておいてくれるとファイリングしやすくなります。
- うまく書面に表現できないので(文章をまとめることが苦手)作成したい気持ちはあるが、作業が進まない為。

問2であい・ふあいるを「知ってはいるが作成はしていない」と回答した保護者26名に質問したところ、あい・ふあいるの作成に至らない理由については、「作成する時間がない」という意見が最も多かった。一方で、「作成に至らない理由は特になく、機会があれば利用したい」との意見も上位だった。また、その他の意見では、「あい・ふあいるセミナーの周知不足」「あい・ふあいるが欲しいタイミングで手に入らなかった」「記入の手間・難しさ」などが挙げられた。

保護者へのアンケート結果から得た活用のためのヒント💡

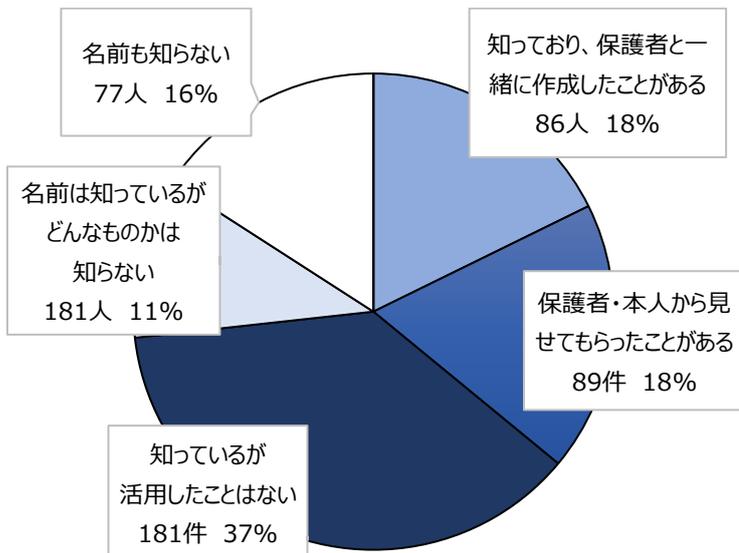
- もっと利用してもらうための取り組みとしてあがった意見から、作るメリットを感じにくいこと、**保護者ひとりであい・ふあいるを作成することへの心理的ハードルが伺えた**。本人を取り囲む**支援者が中心となり、あい・ふあいるを作る・見るというやりとりを生み出す**ことが、保護者・障害のあることも本人のどちらにとってもあい・ふあいるを活用するためのモチベーションとなり得る可能性がある。
- 手書きということへのハードルがあり、中にはアプリ化を求める声もあがった。アプリ化については、何十年という長期における個人情報保有方法や他市への転出した際の対応等のハードルがあるものの、データ入力については**堺市のホームページ上であい・ふあいるの全ページのひな型をデータでダウンロードが可能**である。周知が行き届いていない可能性があることと、スマートフォンでの手軽な入力や、支援者との情報共有がデータでできることも検討の余地がある。
- あい・ふあいるを活用して役立ったエピソードにおいて、ライフステージに応じてまわりの支援者や環境が異なる際に、成長記録や合理的配慮の面を引き継ぐ情報として有用という声が多かった。また、障害年金の申請等、子どもから大人になる段階や、障害福祉サービスの利用に際しても便利という意見も多かった一方、支援者の知名度や求められる機会が少ないことから、**保護者側も活用場面を見出す機会が少ないことが、作成意欲の低下や負担感となっている**可能性がある。
- あい・ふあいるの作成に至らない理由については、「作成する時間がない」という意見が最も多かった。これについては、手軽さや入力情報の量なども検討する余地がある。一方で、「**(作成に至らない理由は) 特にないので機会があれば利用したい**」とする回答も3番目に多かったため、**あい・ふあいるに触れる機会を増やすこともひとつと考える**。また、その他の理由として、「在庫がない」「自宅で印刷ができない」「もらった時期が遅く、活用しづらかった」等の意見が挙げられ、**保護者の手に届きにくい状況であることや、文章として書くのが苦手な方にとってはフォーマットそのものの不便さを感じている**という意見が確認できた。

2. 支援者へのアンケート結果について

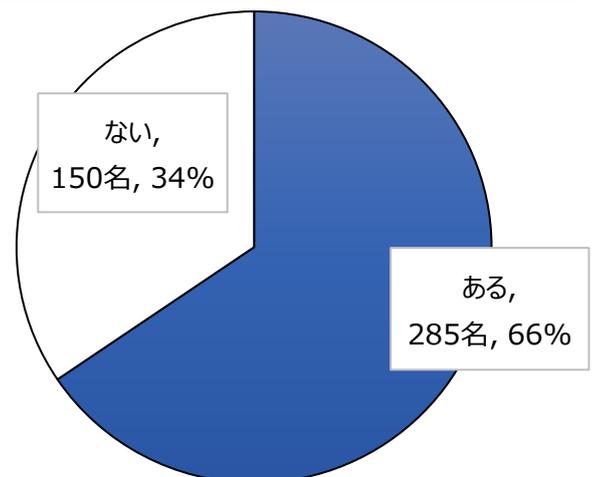
問1 所属機関を教えてください。

機関	回答数
小学校	68
南・北こどもリハビリテーションセンター（診療所・もず園・つばみ園）	62
公立認定こども園	51
保健センター	48
認定こども園・保育所・幼稚園	46
障害児相談支援事業所・特定相談支援事業所	42
障害児通所支援事業所（児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所・保育所等訪問支援事業所）	34
障害福祉サービス事業所（短期入所・居宅介護等）	25
地域福祉課	23
中学校	21
子ども相談所	17
子育て支援課	15
のびのびルーム・堺っ子くらぶ	5
保健福祉総合センター	3
幼保支援課	3
発達障害者支援センター	3
障害支援課	2
障害者就業・生活支援センター	2
教育センター	1
その他	15
合計	486

問2 あい・ふあいるを知っていますか？



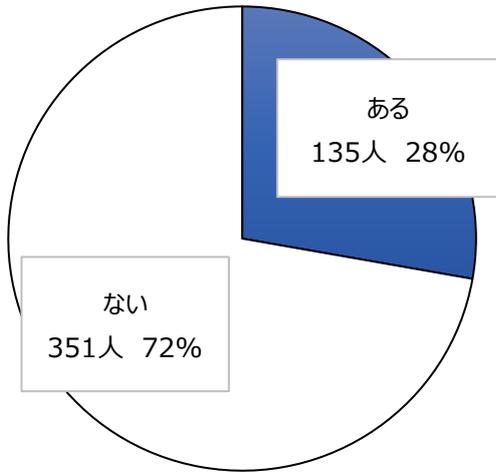
問3 児童の情報について、これまでに保護者から直接聞き取りを行うことが困難と感じたことはありますか？



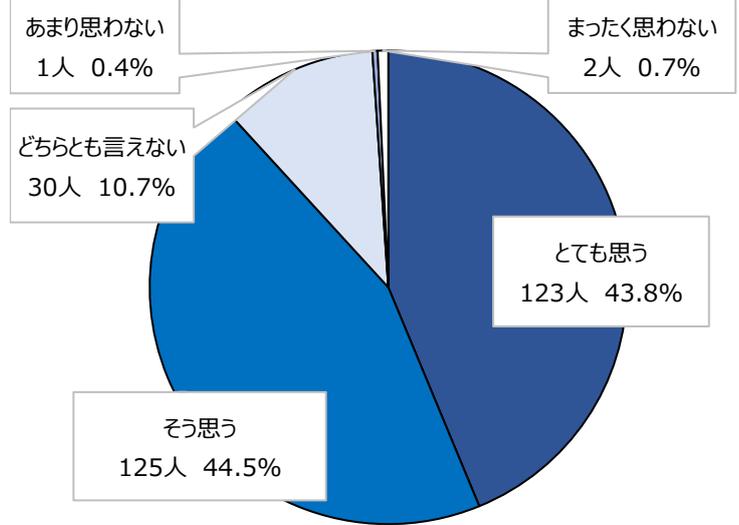
あい・ふあいるを知っている（聞いたことがある）割合は 84%いる一方、知らない、活用していない支援者の割合は 64%であった。

また、保護者に直接児童の情報を聞き取ることに困難さを感じたことがある支援者も半数以上の 66%であった。

問4 保護者にあい・ふあいを求めた(作成しているかどうか聞いた)ことはありますか？



問5 支援の必要な児童が安心して過ごせる環境づくりなどに活かせる情報が載っていれば見たいと思いますか？



あい・ふあいを知っている支援者が64%いる一方、保護者に求めたことがある支援者は28%に留まった。

また、あい・ふあいについて、「活用したことはない」「どんなものか知らない」「名前も知らない」と回答した支援者281名のうち約9割は、こどもが安心して過ごせる環境づくりなどに活かせる情報をまとめたものがあれば見てみたいと思っている。

問6 支援の引継ぎの情報として知りたい重要な内容は何ですか？ ※複数選択可、回答者数は486名。

■ 回答数の多い順

項目	回答数	割合
発達検査等の結果	328	67.5%
生い立ち(出産～健診について)	308	63.4%
保護者の思い(思い出、嬉しかったこと、成長したこと、こどもへの願い)	295	60.7%
好きなこと・得意なこと	287	59.1%
嫌いなこと・苦手なこと	285	58.6%
家族構成	272	56.0%
服薬に関する情報	271	55.8%
各種手帳の取得状況	271	55.8%
受診歴やかかりつけ医	268	55.1%
医療的ケアの情報	259	53.3%
相談機関の記録	254	52.3%
障害福祉サービスの利用状況	250	51.4%
所属先の先生からの引継ぎ事項	227	46.7%
通ったこども園や学校などの所属	210	43.2%
平日・休日・1週間の過ごし方	184	37.9%
生活マップ(こどもを取り巻く環境)	178	36.6%
学年単位の所属・出来事の記載	137	28.2%
手当・年金・医療費等の状況	120	24.7%
学校卒業後の所属	105	21.6%
成人後の暮らしプラン(資格や免許、医療、居住状況、相談機関等)	79	16.3%
写真	67	13.8%

■ 支援機関別「引継ぎで知りたい内容」トップ5（抜粋）

所属機関	1位	2位	3位	4位	5位
小学校	発達検査等の結果 (61)	服薬に関する情報 (55)	保護者の思い (51)	生い立ち (50)	好きなこと・得意なこと (50)
公立認定こども園	発達検査等の結果 (41)	生い立ち (39)	所属先の先生からの引継ぎ事項 (35)	保護者の思い (34)	相談機関の記録 (34)
認定こども園・保育所・幼稚園	発達検査等の結果 (40)	生い立ち (39)	保護者の思い (35)	相談機関の記録 (32)	各種手帳の取得状況 (31)
中学校	発達検査等の結果 (18)	服薬に関する情報 (18)	受診歴やかかりつけ医 (18)	生い立ち (16)	保護者の思い (15)
のびのびルーム・堺っ子くらぶ	保護者の思い (4)	好きなこと・得意なこと (4)	嫌いなこと・苦手なこと (4)	所属先の先生からの引継ぎ事項 (4)	医療的ケアの情報 (3)
保健福祉総合センター	生い立ち (3)	受診歴やかかりつけ医 (3)	発達検査等の結果 (3)	各種手帳の取得状況 (3)	通ったこども園や学校などの所属 (2)
子ども相談所	生い立ち (17)	家族構成 (14)	受診歴やかかりつけ医 (14)	障害福祉サービスの利用状況 (14)	各種手帳の取得状況 (13)
子育て支援課	生い立ち (12)	障害福祉サービスの利用状況 (12)	相談機関の記録 (11)	医療的ケアの情報 (11)	発達検査等の結果 (11)
保健センター	障害福祉サービスの利用状況 (37)	発達検査等の結果 (35)	生い立ち (35)	保護者の思い (34)	受診歴やかかりつけ医 (34)
障害福祉サービス事業所（短期入所・居宅介護等）	障害福祉サービスの利用状況 (22)	家族構成 (19)	生い立ち (18)	医療的ケアの情報 (18)	好きなこと・得意なこと (18)
教育センター	障害福祉サービスの利用状況 (1)	医療的ケアの情報 (1)	相談機関の記録 (1)	発達検査等の結果 (1)	各種手帳の取得状況 (1)
こども園	所属先の先生からの引継ぎ事項 (1)	保護者の思い (1)	相談機関の記録 (1)	発達検査等の結果 (1)	各種手帳の取得状況 (1)
障害児相談支援事業所・特定相談支援事業所	受診歴やかかりつけ医 (33)	障害福祉サービスの利用状況 (33)	生い立ち (33)	家族構成 (28)	医療的ケアの情報 (28)
南・北こどもリハビリテーションセンター	好きなこと・得意なこと (48)	保護者の思い (46)	嫌いなこと・苦手なこと (46)	発達検査等の結果 (44)	服薬に関する情報 (40)
障害児通所支援事業所	好きなこと・得意なこと (31)	嫌いなこと・苦手なこと (30)	保護者の思い (29)	発達検査等の結果 (29)	服薬に関する情報 (26)
障害者就業・生活支援センター	好きなこと・得意なこと (2)	嫌いなこと・苦手なこと (2)	服薬に関する情報 (1)	所属先の先生からの引継ぎ事項 (1)	成人後の暮らしプラン (1)
発達障害者支援センター	嫌いなこと・苦手なこと (3)	好きなこと・得意なこと (3)	服薬に関する情報 (3)	所属先の先生からの引継ぎ事項 (3)	医療的ケアの情報 (3)
幼保支援課	家族構成 (3)	所属先の先生からの引継ぎ事項 (3)	障害福祉サービスの利用状況 (3)	通ったこども園や学校などの所属 (3)	医療的ケアの情報 (3)
障害支援課	家族構成 (2)	障害福祉サービスの利用状況 (2)	発達検査等の結果 (2)	生い立ち (2)	嫌いなこと・苦手なこと (2)
地域福祉課	家族構成 (19)	発達検査等の結果 (18)	生い立ち (16)	手当・年金・医療費等の状況 (15)	障害福祉サービスの利用状況 (15)
その他	家族構成 (12)	生い立ち (11)	嫌いなこと・苦手なこと (10)	受診歴やかかりつけ医 (10)	服薬に関する情報 (10)

支援機関ごとに回答頻度が高かった5つを分析したところ、支援機関によって知りたい内容にばらつきがあることがわかる。

■ その他支援の引継ぎ情報として知りたい内容（自由記述）

ペットや友人関係など、こころのケアに直結するものについて。メモリアル。
これまでの支援計画とその結果
生活状況
今まで受けてきた配慮
各学年ではなく、所属単位でのできごと（苦手なこと・成長したこと）、本人の特性・性格（好きなこと・嫌いなことも含めて）、書くことが多すぎても書きにくいので、薬やサービスを使うときに生活マップとか要るものは後から追加するとか
すべて必要な気がします。

問七 あい・ふあいるを広めるための活用セミナーについて、効果的だと思われる内容があれば選んでください。

※複数選択可



■ その他広めるために効果的だと思われる内容（自由記述）

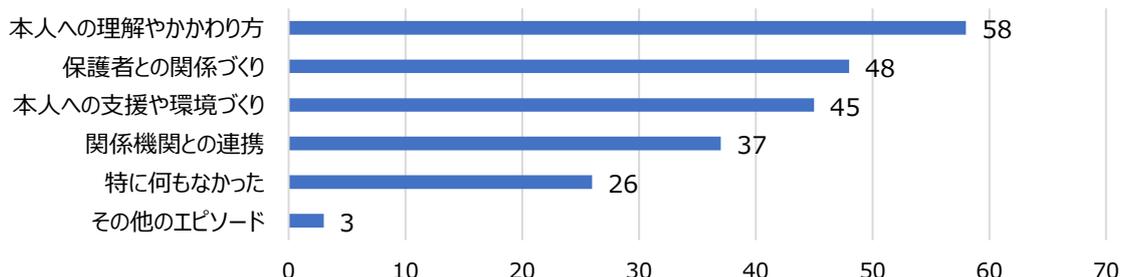
障害という表現に引っかかる保護者がいるから、言葉の表現を考えてほしい。
あいふあいるという形にこだわらないのですが、中学校や高校卒業後、一般校に行かれる際や福祉サービスを利用する際に必要な情報（障害特性、得意苦手、課題に対する対処方法や工夫、周囲の配慮事項、本人や家族の希望など）が最低限まとめられているものがあればうれしいです。家族だけではなく支援者からの申し送りがあると助かります。広く誰でも記入しやすいように、最低限必要な事のみを記入できるもので、セミナーなどが無くても書き方が分かる簡単なもの、必要不必要に関わらずまずは手元に届く事を目標にされると広がるのではないのでしょうか。
あい・ふあいるを作成するとなるとハードルが高い。成育歴の中で受けた発達検査の結果や園や学校での支援計画などをひとまとめにできるようにしていれば、大まかな情報はとることができる。作成している人も、作成するときには熱量が高く記入されているが、継続はむづかしい。だんだん記入されなくなり情報更新がされていないケースが散見される。

セミナーについては「動画配信があればよい」という意見が最も多かった。

また、作成用セミナー、見方・活かし方についてのセミナーは、それぞれ同程度のニーズがあることがわかった。

その他効果的だと思われる内容について、「誰でも記入しやすく、最低限必要な事のみを記入できるもの」という意見や、
そもそも あい・ふあいる自体を「セミナーなどが無くても書き方が分かる簡単なもの」にしてはどうかという意見があった。

問八 あい・ふあいるを活用してうまくいったことがあれば選んでください。



■その他のエピソード（自由記述）

個別支援計画など子どもの情報を管理する意識が高まったり、管理しやすくなったと思います。

保護者が成長の記録としてこまめに記入しており、それを家庭訪問時に見せていただくことがあった。保護者の奮闘してこられた記録にもなっていた。

あい・ふあいるは持ち運びに不便だからというわけではないですが実際に活用している人は少ないと感じます。以前ある保護者が独自にわが子の特性を書かれたミニ版のあい・ふあいる的なものを支援の初めに渡してくださいました。その情報を手がかりに、悩んだときは保護者にも相談していきました。情報の共有は大切ですが、保護者も支援者にも負担にならないようなシステムになりますように！

本人への理解やかかわり方を考える上で参考になったという意見や、保護者との関係づくり・本人への支援や環境づくりに役立てたという意見が多かった。情報を管理する意識が高まったという意見もあった。

支援者へのアンケート結果から得た活用のためのヒント💡

- あい・ふあいるを知っていると回答した人が全体の 8 割以上いたが、そのうち活用したことがあると回答したのは約 4 割であり、**あい・ふあいるを知っていても、活用するまでに至っていないというギャップがあることがわかる。**
- **保護者にあい・ふあいるを作成しているかどうか聞いたことはあるかという設問に対して、「ない」という回答が 7 割を超えた。**この点に関して、保護者へのアンケート結果では、保護者側から「声をかけてもらえない」ためにあい・ふあいるを作成、継続できないという意見があったことから、**支援者側からの呼びかけを強化することにより、保護者があい・ふあいるを活用できるきっかけになっている部分があると考えられる。**
- 引継ぎ時に知りたい内容について、全機関を通して最も回答が多かったのは、「**発達検査等の結果**」であり、**現行のあい・ふあいるには載せていない情報であった。**支援機関ごとに分析したところ、関わる目的等によって、知りたい内容にばらつきがあるということがわかったが、発達検査等の結果と同率で 5 位以内に入った項目として半数以上の機関で挙げられたのは「**生い立ち**」の情報であった。次に多かった「保護者の思い（思い出、嬉しかったこと、成長したこと、子どもへの願い）」については、子ども園、学校、通所支援事業所等など、本人や家族と直接かかわる機関に多く挙げられた。
次に「好きなこと・得意なこと」「嫌いなこと・苦手なこと」については、本人との関わりや本人の生活を中心とした支援に関わる機関で高く挙げられ、「服薬に関する情報」については、本人に日常的に関わる時間の多い機関等に多く挙げられた。
- あい・ふあいるの活用セミナーについては、**動画配信があればよい**という意見が多かった。保護者、支援者双方があい・ふあいるについて知りたいと思ったときに、**いつでも情報が入りやすい取り組みが必要**と考える。その他、効果的だと思われる内容については、「誰でも記入しやすく、最低限必要な事のみを記入できるもの」「セミナーなどが無くても書き方が分かる簡単なもの」という意見があった。
- あい・ふあいるの作成時期としては、生い立ちから保護者が記載できるきっかけを提供し、引き継ぐ支援者たちが、こまめな声掛けを行うことや、発達検査等をはじめ、外部から受け取った情報もバインダー綴るなどを勧めることを継続していくことで、保護者の利活用の促進につながることも、支援者にとっても必要な情報が集まりやすくなると言える。
また、保護者にとって、記録の手軽さや利活用のメリットがわかりやすいこと、支援者にとっては、あい・ふあいるの内容や活用方法、子どもの知りたい情報を確認するツールとして周知、広報を強化するなど、改善の余地があることが確認できた。